

ロックダウン解除後の上海市内

62日ぶりの自由な外出。約2カ月間続いた上海市のロックダウンは5月末に解除されました。しかし、解除後も市内各地では部分的な地域封鎖や行動制限、毎週末の一斉PCR検査といった防疫措置が行われており、通常生活とはほど遠い状況です。そこで今回は、5月下旬のロックダウン解除直前から6月の解除後の様子についてお伝えします。

◆ 待望のロックダウン解除

3月下旬にロックダウン開始が通知されたのは実施前日の夜8時過ぎでしたが、封鎖解除もやはり前々日の夕方に突然発表されました。発表当初は多くの市民が「本当に解除されるのか？」と疑心暗鬼でしたが、5月31日の夜、ようやく封鎖解除が現実味を帯びてきて、深夜0時には周りから大きな歓声が聞こえてきました。ちなみに、日本人が多く住んでいる上海市の中心地域では、数年前から花火などが禁止されているため、花火や爆竹の音などを聞くことはありませんでした。

◆ ロックダウン解除後の様子

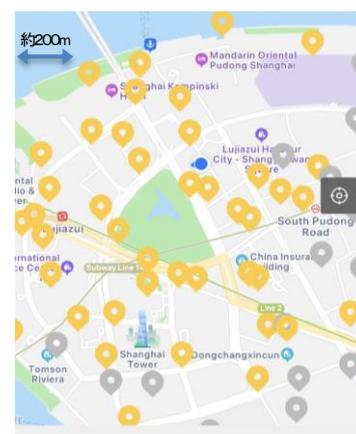
地下鉄やバスに乗る時、オフィスビルやデパートに入る時、さらにはデパート内のテナントに入る時や自分の住んでいる居住地区やマンションに入る際にも72時間以内の陰性証明を提示することが求められます。そのため、ほぼ1日おきに検査を受け続けなければならないことから、街の至る所にPCR検査場が設けられました。※検査料は無料（公費）です。

また、飲食店の店内飲食は禁止されていますし、博物館などの屋内施設も閉館したままであったりと、ロックダウンは解除されましたが、通常の日常生活とは程遠い状況が6月中も続きました。そして、7月末までの毎週末、居住区ごとに全住民の一斉PCR検査が実施されており、検査当日は検査が終了するまで外出が禁止されています。

私のロックダウン期間中の総検査回数は70回でしたが、まだまだ受検回数記録は伸びていきそうな状況が継続中です。



街中に設置されたPCR検査場



市内中心部では数百メートルおきに検査場が設置されています。
※黄色印が稼働中の検査場です。

(上海駐在員事務所 澤田洋介)

◆ 回復への道のり

ロックダウン解除当初はリベンジ消費があるのではといった見方もありましたが、またいつ封鎖されるかもしれない疑念の中で、失われた消費活動が回復する兆しはいまだに見えてきていません。一方で、工場などでは急速に生産が回復してきている実態もあり、日本への影響も非常に大きい上海の動向については、目が離せない状況が続きそうです。

※本稿は、仙台経済界2022 7-8号「77グローバルレター」欄への寄稿を再編集したものです。

【お問合せ先】

七十七銀行 市場国際部 アジアビジネス支援室
TEL.022-211-9880

【Global Letter NEXT ホームページ】

その他の記事はこちらからご覧ください。

https://www.77bank.co.jp/kokusai/globalletter_next/



本紙記載の内容につきましては、当行が信頼できると考える情報に基づき作成しておりますが、その正確性、信頼性、完全性を保証するものではありません。法律上、会計上、税務上の助言を必要とされる場合は、それぞれの専門家にご相談いただくようお願い申し上げます。